

講義名	データでみる現代経済			授業形態	
担当教員	森澤 龍也	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	ECN280
主題と概要					
現代経済の動きを理解するためには、経済統計の活用が必須といえる。この講義では、データに基づいて現代経済をみるための基礎を学ぶ。より具体的には、代表的な経済統計を活用して現代経済の実相をみていくとともに、金融データを用いて、担当者の専門である金融の視点からも、現代経済の実態を分析する。					
到達目標					
(1) 代表的な経済統計（GDPやCPIなど）を学ぶことで、経済学をより深く理解することができるようになる。 (2) データの動きから実際の経済で起こっている事柄を読み解くことができるようになる。 (3) 経済の論理と経済データの動きの結びつきを理解することができるようになる。					
提出課題					
講義中課題（レポート課題など）を実施する予定である。課題は教科書を使用するので、準備しておいてもらいたい。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
講義時間中に適時、講評・解説の機会を設ける。					
評価の基準					
・レポート課題： 40% ・定期試験： 60%					
履修にあたっての注意・助言他					
講義中での私語は厳禁である。					
教科書					
『レクチャー&エクササイズ金融論』		森澤龍也	新世社	2200円+税	9784883842223
参考図書					
参考文献については講義中に適時、紹介する。					

その他		
必要に応じて、担当者作成の講義レジュメおよび参考資料を配布する。		
授業計画		
1 データでみる現代経済序論 予習：開講までに指定された教科書を通読し、全体の内容を把握しておく。また、経済学入門およびミクロ・マクロ経済学（履修者の場合）の内容を復習しておく。（4時間） 2 国民所得統計：GDPとは 予習：情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 3 国民所得統計：三面等値 予習：情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 4 日本の経済成長 予習：情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 5 日本の景気循環 予習：情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 6 日本の資金循環 予習：教科書や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 7 要点確認（経済統計と時事討論）： 予習：教科書や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 8 お金の動き：マネーストック 予習：教科書や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 9 お金の動き：マネタリーベース 予習：教科書や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 10 物価の動き：インフレとデフレ 予習：情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 11 金利の動き： 予習：教科書や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 12 要点確認（経済統計と時事討論）： 予習：教科書や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 13 通貨・物価・金利と金融政策： 予習：教科書や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 14 通貨・物価・金利と金融政策： 予習：教科書や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間） 復習：教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、講義内容の理解を深める。（2時間） 15 総復習 予習：教科書や情報検索などによって講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。（2時間）		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
経済情報学科経済情報コース： DP（1）- との関連性：目標（1）-（3）を達成することで共通DPに貢献できる。 DP（2）- との関連性：目標（1）-（3）を達成することで共通DPの「経済情報分析力」に貢献できる。 経済情報学科情報システムコース： DP（1）- との関連性：目標（1）-（3）を達成することで共通DPに貢献できる。 DP（3）- との関連性：情報システムの仕組みを直接の考察の対象とはしていないが「情報処理能力、問題解決のための応用力を身につける」ことに貢献できる。 経済学科現代経済コース： DP（1）- との関連性：目標（1）-（3）を達成することで共通DPの「これまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察」することに貢献できる。 DP（2）- との関連性：目標（1）-（3）を達成することで共通DPの「世の中の動きを理解して、経済問題の諸問題に解決策を提案する」ことに貢献できる。 経済学科地域まちづくりコース： DP（1）- との関連性：目標（1）-（3）を達成することで共通DPの「これまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察」することに貢献できる。 DP（3）- との関連性：特に地域社会の諸問題に考察対象を特定していない。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
講義中での積極的な参加・発言を期待する。クリッカーを使用する予定である。		
実務経験の有無及び活用		
実務経験なし		
備考		